

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	会津大学
整理番号	B12
構想名	「心・技・体」三位一体による世界で活躍する革新的ICT人材の輩出

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>B</b>	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、ICT分野ともものづくりに特化した地方の小規模公立大学が、その強みを活かし、地域社会や企業とも連携しながら、世界で活躍する創業人材を育成しようとする取組である。</p> <p>4つの基本プログラムである「学部・大学院一貫オナーズプログラムの創設」、「先進ICTグローバルプログラムの創設」、「技術革新・創業基礎・海外研修科目群の創設」、及び「ガバナンスの改善とグローバル化」のそれぞれにおいて、体制が整備され事業が着実に進行している。また、外国人留学生数が増加し、オナーズプログラム、復興関連プロジェクト、ビジネス・アイデア等コンテストへの参加人数が増加するなど、大学独自の取組の進捗状況は良好であると判断される。</p> <p>一方で、学部学生の英語能力については、平成29年度中間評価において改善の必要性が指摘されていたが、大学として必ずしも積極的かつ具体的な対策が講じられているとは思われない。早急に、学生の英語力（技術英語の運用能力）を客観的指標により可視化し、把握することが必要である。その上で、すべての学部学生を対象に、英語力を向上させるための対策を、全学的な教育体制の下で実施することが求められる。次回の評価時には、具体的な成果を、指標に基づいて示すことが必須である。</p> <p>財政支援期間終了後の自走化に関しては、大学予算への内在化に加え、国内外の企業・団体との連携に基づく外部資金の獲得が見込まれている。また、クラウドファンディングの活用、プログラムフィーの徴収、寄附金の募集など様々な財源確保が計画されており、本事業の推進については自走化が可能であると思われる。しかし、「福島復興のためのICT拠点としての機能の拡大」と「オープンなグローバル大学への成長・発展」に事業を展開させるには、さらなる財源確保の努力が期待される。</p>	